

地域医療連携室だより

循環器領域の抗血栓療法について

循環器内科 三間 渉

抗血栓療法は抗血小板療法、抗凝固療法など循環器疾患においては非常に関わりが深い治療法です。近年、新薬の登場、治療法の変遷により、様変わりしてきています。

抗血小板薬は主に虚血性心疾患に使用されます。二次予防としてエビデンスが確立しているアスピリンに加え、経皮的冠動脈形成術（PCI）でステント留置を行った症例にはチエノピリジン系（クロピドグレルなど）を併用することはよく知られてきています。従来のステント（ベアメタルステント、BMS）では 2 剤併用（Dual antiplatelet therapy; DAPT）は留置後 1 か月間でした。近年、ステント再狭窄の成績が飛躍的に向上した薬剤溶出性ステント（DES）の使用頻度が高くなってきていますが、DES ではステント血栓症、特に留置後 1 年以降におこる超遅発性血栓症が報告されました。現在の循環器学会のガイドラインは DES 留置後の DAPT は 6 か月と記載されていますが、当院では可能な限り長期に行っています。ステント血栓症は頻度が年間 0.2-0.5% 程度と低いですが、発症するとほとんどの症例で急性冠症候群となるため注意が必要です。データの蓄積や、DES の改良が進んでおり、今後ガイドラインの変更の可能性もあります。

抗凝固療法は主に心房細動（AF）の脳梗塞予防に使用する頻度が多く、ワルファリンが主流でした。非弁膜症性 AF（人工弁置換例や僧帽弁狭窄に伴った AF 以外のもの）に対して、昨年 4 月から直接的トロンビン阻害薬のダビガトランが発売され使用が広がっています。脳梗塞予防効果はワルファリンと同等ですが、ダビガトランの大きな特徴として、脳出血の合併症が少ないことが挙げられます。これを踏まえ、これまで非弁膜症性 AF では CHADS2 スコア（下表）2 点以上がワルファリンの適応で、1 点は考慮となっていました。ダビガトランは 1 点の症例にも推奨されるステートメントを日本循環器学会が発表しました。モニタリングも不要で、納豆も食べられるダビガトランですが、高度腎機能障害患者には禁忌であること、まだ日本人でのエビデンスは充分でないこと、あくまで非弁膜症性 AF への適応であることなどを認識した上で投与しなければいけません。AF には今後も新たな抗凝固薬が加わり、治療の選択肢が更に広がってくる予定です。

以上のような現状ですが、我々としては、常に最新の情報を入手し、地域の先生方と連携していきたいと思っております。また観血的な処置に伴う、これらの薬剤の安易な中止は避けなければいけません。お困りの症例がおられましたらご紹介いただき、加療の一端を担わせていただければ幸いです。

表 CHADS2 スコア

C; congestive heart failure 心不全既往 1 点

H; Hypertension 高血圧 1 点

A; Age 年齢 75 歳以上 1 点

D; Diabetes 糖尿病 1 点

S; Stroke 脳梗塞既往 2 点

お知らせ

2月外来診察担当医のご案内

外来診察担当医一覧表を同封いたします。

「病診連携事業信楽園病院登録医連絡会議」のご案内

日 時：平成24年3月8日（木）午後7時～8時30分

場 所：信楽園病院 大会議室（7階）

講 演：循環器内科 三間 渉

「循環器疾患領域における ARB のエビデンスと使い分け」（仮）

「外来糖尿病教室」開催のご案内

日 時：平成24年3月14日（水）午後1時～3時

場 所：信楽園病院 大会議室（7階）

内 容：糖尿病の神経障害 （高澤 医師）

さとう（甘味料） （管理栄養士）

検査値の見方 （検査技師）



社会福祉法人 新潟市社会事業協会 信楽園病院 地域医療連携室

〒950-2087 新潟市西区新通南3丁目3-11 TEL 025-260-8101（直通）

E-mail renkei@shinrakuen.com

FAX 025-260-8102（直通）

展示ギャラリーのご紹介

1月、1階外来ホールに展示いたしました展示作品をご紹介します。

